

自身の内側を表現する為の絵画ではなく、「他者」と関わる事を自覚する事によって生まれる絵画。より広がりのある風通しのいい作品にしたい。

311以降という言葉はあまりにも多く使われ、ここで僕が又この言葉を繰り返す意味がどれほどのものかと思ったりします。しかしやはり語らずにはいられないのです。311は大きな衝撃でした。地震・津波・原発の事故はもとより、今まで社会に対して自分がある程度納得して理解し整理してきたものが全て裏切られ崩れ落ちていく思いでした。というか僕が全て理解していると思っていたものは僕からの一方的な視線の上で成り立っている世界でしかなかったように思います。それで世界を見るには世界の外に立つて見る視線が必要なのではないかと漠然と思う様になっていきました。

それは制作に対しても影響を及ぼしました。今まで僕の内側を表出するための道具だと思われていた筆、絵具、キャンバス、また作品を鑑賞してくれるオーディエンス、それらを一度全て自分から切り離し、想像を超えた外部に存在する「他者」として捉えてみたら世界はどう見えてくるのか。その上で制作するということは何を意味するのか、またそのことにより何が立ち上がって来るのか。

僕の作る作品はいつも流動的で不安定なものです。その不安に居たたまれず、ついそれを力づくでコントロールしようとすることがあります。しかし、そうすることによって逆に自分がコントロールされてしまう。それらと自分との関係を解放してあげること快方してあげること。それによって世界を外側から読み取ることが出来ないか。考えてみればそれはただスタジオの中で夢見ているに過ぎません。往々にして絵描きは無理だと分かっているのに傲慢なもので世界の有り様を描けると思ってしまうのです。

丸山直文